MIDORI NO TOHOKU

みどりの東北

No.83

発行日■平成23年2月　発行■東北森林管理局
秋田市中通五丁目9-16　TEL. 018(836)2192

ホームページ ● http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/

森林・林業技術の普及・向上に向けて発表会を開催（詳細は２ページで紹介）

トピック

特集

「平成22年度森林・林業技術交流発表会を開催」
指導普及課

「今年度の事業を振り返って」
藤里森林センター

美しい森林づくり（地域発案システムの取組）

「森林環境教育の推進と岩手・宮城内陸地震についての広報活動」
宮城北部森林管理署

我が署の隠れた名所

「馬場山アカマツ巨樹」
青森森林管理署

東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

2011・国際森林年

「平成22年度 森林・林業技術交流発表会を開催」

平成23年2月3日（木）、4日（金）の両日、当局大会議室において「平成22年度森林・林業技術交流発表会」が開催されました。

この発表会は、森林・林業の技術の普及・向上や関係者の技術交流等を目的に毎年開催されているものです。

今年度は、森林の効率的な整備や適切な保全を図るための技術の確立、森林における獣害対策等について発表する「森林技術部門」に25課題、国民参加の森林づくりや森林環境教育の取組等について発表する「森林ふれあい部門」に5課題、国民視点に立った業務の推進を図る取組等を発表する「国民の森林部門」に2課題の計32課題と中学生・高校生による3課題の発表がありました。

このほか、森林総合研究所や岩手県、山形県から地すべり変動の観測、低コスト林業への取組状況、抵抗性マツの育種、害虫による被害と防除法についての特別発表がありました。

最優秀賞を受賞した中里さん

また、拡大するナラ枯れ被害の防除対策として、被害発生予測マップの作成やおとり木トラップ法によるナラ枯れ防除について森林総合研究所等から特別講演がありました。

会場には、2日間で延べ400人の入場があり、発表者がこれまで取り組んできた研究成果の報告に熱心に聴き入っていました。

最後に、審査委員より「貴重なデータを集めることができる技術者とそれを分析、研究する研究者が協働で取り組んでいく場をさらに設けてほしい」、「新しい発想、基礎から応用まで幅広い発表があり、東北の林業関係者の意気込みを感じた」、「中・高校生の高いレベルの発表には毎年驚かされる」などの講評がありました。

優秀賞を受賞した盛岡農業高校の生徒

なお、厳正なる審査の結果、「森林技術部門」では、岩手・宮城内陸地震被災地の復旧対策を進める中で、大量に発生した倒木等を植生基材へ活用しリサイクル促進に取り組んだ岩手南部森林管理署の中里郁恵さんが、「森林ふれあい部門」では、地域の特性を生かしたフィールドを活用し、関係機関と連携して森林環境教育リーダーの養成に取り組んだ岩手北部森林管理署の田口暁史さん、木村雄大さんが最優秀賞を受賞しました。また、「国民の森林部門」では、森林・林業再生プランで示された木材自給率50％の目標達成のために、立木販売・素材生産事業を行った森林所有者の満足度を調査し、出材意欲を増加させる対策を考察した東北森林管理局計画課の安藤菜穂さんが最優秀賞を受賞しました。

「中学・高校の部」では、かつて岩手県の生糸生産の一翼を担っていたヤママユガの種の保存と林業再興を目的とした利用について研究した岩手県立盛岡農業高等学校が優秀賞を受賞しました。

各部門の発表課題と審査結果は次のとおりです。

澤口審査委員長による講評

平成22年度森林・林業技術交流発表会課題

発表部門		発表課題名	発表機関	発表者	表彰
一般の部	森林技術部門	スギ大苗を使用した低コスト造林方法の一考察	東北森林管理局森林技術センター	木村　正彦	
		「土湯の森」緑の回廊の機能回復に向けて －その経過報告Ⅱ－	東北森林管理局朝日庄内 森林環境保全ふれあいセンター	瀬高　孝男	
		スギ人工林における自然再生に向けた取り組みの一考察	東北森林管理局津軽白神森林 環境保全ふれあいセンター	山上　裕行	
		ヒバの巣植えによるヒバ・広葉樹混交林施業の確立 －試験地の施業経過と今後の取り組み－	東北森林管理局森林技術センター	田畑　良輝	
		仁鮒水沢における天然秋田スギ個体の成長－樹冠形状、 土壌条件及び局所密度の空間異質性に着目して－	秋田県立大学	石川　雄一	
		「山本地域における林地残材利用の取組みについて」	秋田県山本地域振興局 農林部森づくり推進課	佐藤　正仁	
		鳥海山におけるブナを主とした広葉樹施業箇所の生育状況について	由利森林管理署	高橋　友和	
		スギ高齢級人工林の評価－樹冠長と年輪幅に注目して－	米代東部森林管理署	徳原　清樹	奨励賞
		猛禽類の餌場環境の改善のため実施した列状間伐について	岩手南部森林管理署	片井　直樹	
		「天然スギ大鰐特異形質遺伝子」の保存の取り組みについて	津軽森林管理署	坂本　誠	奨励賞
		岩手・宮城内陸地震 市野々原地すべり復旧工事における現地発生材の活用とその効果	岩手南部森林管理署	中里　郁恵	最優秀賞
		海岸防災林における造成手法の検討	庄内森林管理署	水村　年一	奨励賞
		水源林造成事業におけるコンテナ苗（スギ）植栽について ＝低コスト造林に向けた取り組み＝	(独)森林総合研究所森林農地 整備センター東北北海道整備局	中原　健一	
		位置情報付写真の活用について	青森森林管理署	渡辺　貞幸	
		北上高地のイヌワシと生物多様性保全を目的とした 等高線方向列状間伐の効果	三陸中部森林管理署	盛　一樹	奨励賞
		民国連携による間伐材の有利販売について	上北森林組合	相内　貢	林政記者クラブ賞
		ナラ枯れ被害防除に向けた取組	宮城県大河原地方振興事務所 林業振興部	佐藤　隆之	
		森林・林業再生プラン（山形森林管理署にあてはめた将来の展望）	山形森林管理署	佐野　恭子	奨励賞
		下北地域におけるクマハギ防除対策の取組み	青森県下北地域県民局 地域農林水産部林業推進課	春田嘉菜子	奨励賞
		生態系・景観に配慮した治山工事について －植物誘導吹付工の効果と課題－	下北森林管理署	三瓶　広幸	
		ブナの豊凶を左右する個体ごとの性質 －気温に対する開花応答の違い－	山形大学農学部生物環境学科	須藤　泰典	
		ブナに対するウエツキブナハムシの被害程度と開花頻度の関係 －防御と繁殖のトレード・オフ－	山形大学農学部生物環境学科	清野　陽介	優秀賞
		５ｍ幅列状間伐後のうっぺい速度について	宮城北部森林管理署	山田　祥五	
		低コスト造林普及・定着のための コンテナ苗植栽実証調査の結果について	仙台森林管理署	千葉　大輔	
		岩大式森林作業道の路面・路体支持力の経年変化	岩手大学農学部附属 寒冷フィールドサイエンス 教育研究センター御明神演習林	高橋　健保	奨励賞
	森林ふれあい部門	白神山地における森林環境教育の新たな取組と子ども達の現状	東北森林管理局藤里森林センター	安田　大地	
		妖精の住む森を利用した森林環境教育リーダーの育成について	岩手北部森林管理署	田口　暁史、木村　雄大	最優秀賞
		里山林の保全活動における地域社会と環境教育	成澤グリーンフィールド協力隊	相馬　清孝	
		木質バイオマスのエネルギー利用に向けた取組み	山形県最上総合支庁 産業経済部森林整備課	齋藤　孝浩	
		子どもと大人“松林協働”10年の歩み	万里の松原に親しむ会	三沢　英一	優秀賞
	国民の森林部門	素材生産事業体における人材育成の取組に関する調査	東北森林管理局販売課	畠山　悟	
		立木販売・素材生産における森林所有者の満足度等に関する調査	東北森林管理局計画課	安藤　菜穂	最優秀賞
中学・高等学校の部		「ヤママユガ（天蚕）の繁殖と利用に関する研究　～第一報～」	岩手県立盛岡農業高等学校	亀山　俊哉、火石　恵梨	優秀賞
		生徒会が中心となった環境整備活動 ～ゆりりん整備作業等を通して～	宮城県名取市立閖上中学校	佐々木和海、相原　碧人	奨励賞
		生物生態系の復元と課題	青森県立五所川原農林高等学校	永野　慎吾、三浦裕太郎、 森本　光星	奨励賞

特集 コーナー

「今年度の事業を振り返って」

藤里森林センター

秋田県の藤里町にある藤里森林センターは、世界自然遺産でもある白神山地森林生態系保護地域の秋田県側及びその周辺地域において、植物の盗採掘防止等のための巡視活動、登山道や歩道の整備補修等の保全管理とともに周辺地域の国有林をフィールドとして、森林教室や体験学習、森林とのふれあいを進める活動などを積極的に行い森林・林業の普及啓発活動に取り組んでいます。

○森林教室

今年度は、藤里町立藤里小学校、大館市立早口小学校、大館市立山瀬小学校の児童を対象に森林教室を開催しました。

6月17日（木）、藤里小学校5年生の児童26名が、「ふるさと教育体験学習・森林教室事前学習会」のため当センターを訪れました。子ども達はみんな元気で、職員の挨拶にもはきはきと答えてくれました。

はじめに、所長によるスライドを用いた授業を行いました。授業内容は「日本の森林」や「世界の森林」、「森林の働き」や「白神山地について」など、身近な話からちょっと遠い話まで様々でしたが、時々笑い声が混じる和やかな雰囲気の中、子ども達はメモを取ったり、所長の質問に答えたり、真剣に取り組んでくれました。

所長の話を真剣に聴く子ども達

スライド授業の途中には休憩も兼ねて、渡り廊下で、職員3名による体験型の授業を行いました。子ども達は、多くの樹木の標本に直接触れ、種類により樹皮や年輪が違うことを感じたり、ブナの実が多くの動物の食べ物になっていることなどを学びました。

また、実際にブナの実を食べたり、健胃整腸剤としても用いられた、苦いキハダの皮もなめて、〝良薬口に苦し〟も体験しました。

子ども達からは、樹木の樹皮は「ざらざらしていた」、ブナの実は「おいしいっ」、キハダは「にっが～～っっ」など様々な反応がありました。

樹木に触れることによりいろいろな違いがあることを感じました

○森林ふれあい推進事業

森林との関わりが少ない方々に森林の中で自然と親しみ、遊び、学ぶことにより、森林に対する理解を深めていただくことを目的に、様々なイベントを開催しています。

6月26日(土)、今年度第1回目のイベントである「深緑の白神山地での藤里駒ヶ岳登山」には、秋田市や能代市、遠くは千葉県や徳島県からの参加がありました。

ニッコウキスゲが咲く中を登山

当日は、梅雨の合間の晴天に恵まれ、絶好の登山日和となりました。当センターで開会式を行った後、バスで登山口まで向かい、車中でのセンター職員による名調子のガイドに耳を傾けながら、1時間ほどで黒石沢登山口に到着しました。

登山口では、行程の確認、準備運動を行い、2班に分かれて、登山を開始、途中の田苗代湿原では、ちょうどニッコウキスゲが咲き始めており、参加者の目を楽しませてくれました。

湿原を過ぎると、登山道の傾斜がきつくなり、また、当日の暑さも加わり、多くの方が大粒の汗をかきながら、登りが連続する登山道に挑戦しました。

随所でセンター職員によるユーモアを交えた動植物の説明を聞きながら、ゆっくり無理のないペースで登って行き、野鳥のさえずりに励まされ、全員笑顔で登頂することができました。

センター職員による植物の説明

山頂では、ゴゼンタチバナの白い花が満開で、白神岳や向白神岳、岩木山、森吉山など遠くの山々まで一望することができ、この景色に、参加者の皆さんは大満足の様子でした。

岩木山がくっきり見えました（写真中央）

参加者の方々からは、「ガイドさんの説明がわかりやすく、とても楽しく感じました」、「頂上での眺めがすばらしく、元気になった」、「また次回もぜひ参加したいと思いました」などの感想をいただきました。また、「参加人数をもっと増やしてみてはどうでしょうか」、「参加者への行程表、資料を(参加当選）決定通知と併せて送付いただければよかった」、などの貴重なご意見も寄せられました。

○白神森林講座

地域住民の方々に、座学を中心に白神山地を理解して頂こうと今年度から取り組んでいます。

6月11日（金）、秋田市や北秋田市などから13名の参加を得て、初めての「白神森林講座」を当センター研修棟において開催しました。

「森林の野鳥たち」と題して行われた講義では、朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターの青山所長を講師に迎え、森林でよく見かける野鳥の見分け方や白神山地に生息する特徴的な野鳥の生態などを学びました。

青山所長による講義

午後からは岳岱自然観察教育林に移動し、青山講師に引率して頂きながら、植物観察やバードウォッチングなどを行いました。

バードウォッチング

シジュウカラやヒヨドリ、コルリ、エゾムシクイ、キビタキなど様々な鳥たちの鳴き声が響く中、バードウォッチングでは、シジュウカラが餌をくわえて木の枝にとまっているのを見ることが出来ました。

参加者からは、「バードウォッチングができて良かった」「青山講師や森林センター職員からの説明が大変分かりやすかった」「(岳岱散策で）ゆったりとした時間の中、楽しく過ごすことができた」などの感想をいただくことができました。

当センターでは、白神山地をフィールドとした巡視・保全管理活動や森林ふれあい推進活動をさらに充実させ、「地域に親しまれる森林センター」を目指して今後も取り組んで参ります。

美しい森林（もり）づくり

（地域発案システムの取組）

森林環境教育の推進と岩手・宮城内陸地震についての広報活動

宮城北部森林管理署

当署では、次代を担う子供達のために、自然保護団体等の協力を得ながら森林環境教育を積極的に行っています。

また、平成20年6月14日に発生し、栗駒山周辺の山間地域に甚大な被害をもたらした岩手・宮城内陸地震から2年以上が経過し、緊急性の高い復旧工事も概ね完成し、国道等も昨年の9月に通行できるようになりました。このため、これを期に、当該復旧対策の状況等を地域へ情報発信することとして、復旧現場の見学会等に取り組んでいます。

○地元中学校の生徒を対象に森林環境教育を実施

大崎市立三本木中学校2年生を対象に、「舟形山のブナを守る会」の協力を得て総合学習の時間に座学と野外学習を行いました。座学は、10月6日（水）、同校において、生徒65名と先生が参加し、当署職員、保護団体代表等が講師となり、森林の役割、人工林・天然林及び水の流れなどについて理解を深めました。

野外学習後の記念撮影

また、野外学習は、座学の知識をフォローアップするもので、10月8日（金）に船形山自然観察教育林内などで開催しました。生徒や保護者等93名が参加し、体験林業、森林インストラクターによる自然観察会を行いました。自然観察会では、同教育林内のハイキングコース5.1キロを2時間程歩き、気力・体力を養い、自然のすばらしさを学び、理解を深めました。

説明を聴く参加者

○山地災害復旧現場等の見学会を開催

10月18日（月）、栗原市・大崎市の地域住民に、治山事業の重要性及び国有林野事業を広くPRするため、国有林内の災害復旧現場等の見学会を開催しました。参加者は、51名で、各市の広報誌・ホームページを利用して募集したところ約一週間で定員に達するほどの人気でした。

当日は、マイクロバス2台に分乗して荒砥沢地すべり災害復旧現場へ向い、上方から被災地域を見学しました。参加者は大規模な地すべりにより一瞬にして姿を変えた森林や寸断された市道を目の当たりにして一様に驚愕していましたが、江坂宮城山地災害復旧対策室長からの着実に復旧対策が講じられているとの説明に安堵した様子で、国有林の安全安心への取り組みについて理解して頂きました。

このほか、くりこま高原駅・道の駅等でパネル展を開催したり、冊子「山地災害の記録－平成20年岩手・宮城内陸地震－」を県内の図書館、高等学校73施設に送付したりするなど国有林野事業及び当署における災害復旧対策を大勢の人々にPRしました。

パネル展の開催

モニター便り

国産材の利用で森を元気に

岩手県矢巾町　吉田芳英

2011年は記録的な大雪で明けました。大晦日から降り続いた雪は盛岡で史上３番目の積雪となり、岩手県では県北地区を中心に広い範囲で停電被害が発生し、７万戸以上の家庭で電気のないお正月を過ごすことになりました。復旧作業ははかどらず、最も遅く回復したのは４日午後になったところもあります。

大雪は西日本にも大きな被害をもたらし、普段雪の降らない鹿児島市でも22㎝の積雪があったのには驚きます。欧米での寒波、豪州やブラジルなどの集中豪雨、そして昨年日本列島を襲った猛暑などの異常気象は地球温暖化のせいかどうかは分かりませんが、地球環境の悪化を感じます。昨年の白神山地の現地見学会では、ただ広大な原生林の美しさに感動して帰ってきましたが、今改めて思えば、あの白神山地のような自然豊かな原生林が世界各地で消えていったことも異常気象の原因となっているのでしょうか。

日本の森林が荒れているといわれます。安い輸入材に押されて国産材の利用が進まないことや採算に合わないため間伐をしないことによって森林が健全な姿になっていないことは憂慮すべきことです。先にふれた停電も、間伐をしないためにひ弱に育った松や杉などが湿った雪の重さに耐えきれず電線を切断したことが一因であるといわれています。

国土の約７割を占める森林を健全な姿にするために、私たちはもっと身近にある木材という資源に関心を払うべきです。私は15年程前、家を新築する際に出来るだけ無垢の木材を使うよう心掛け、暖房は好きだった鋳鉄製の薪ストーブを取り入れました。これはことさら環境を意識して新建材や化石燃料を避けたのではありません。昔のような木や土壁だけの家は無理としても、木を多用した家は住む人にとって心地よいと思ったからです。実際、無垢の栗板を敷いたリビングは素足にとても心地よく、少々のしみや傷も気になりません。工業的に作られたフローリングではこうはいきません。柱や天井なども古くなればそれなりの味が出てきて愛着がわき、いつまでも永く使えそうな気がします。公共建築物は、公共建築物木材利用促進法によって木材の利用を促進することになっていますが、個人も木材を多く取り入れた住宅や家具などに関心を持つべきです。国産材を積極的、計画的に使い木材自給率を高めれば日本の森が健全な姿になり、二酸化炭素吸収量も向上して地球環境の向上に役立つでしょう。林業従事者の雇用の拡大にもつながります。輸入材が減ることは海外の大規模な森林を保護することにもなります。

今年が国際森林年の年であることや新年早々の寒波と豪雪を経験して、森林の果たす役割の重要性を改めて考えてみたいと思っています。

各地からの便り

「治山の森」で森林教室を開催

仙台森林管理署

11月26日（金）、仙台市郊外にある金剛沢国有林内の「治山の森」において、隣接する八木山南小学校６年生児童53名を対象に、主に治山事業に対する理解を深めることを目的に森林教室を開催しました。

この地域は、昭和30年代から50年代にかけて大規模な地滑りが数回発生し、周辺地域に大きな被害をもたらし、また、開発・都市化が急激に進んだことにより治山事業の重要性が増しました。このため、当署では、地すべり防止のために治山ダムや排水トンネルなどの防災施設を整備し、森林を復旧するとともに、

１時間半かけて「治山の森」を見学

下流域に広がる住宅地を守っています。

通常、治山ダム等の施設は山奥にあり、普段なかなか目にすることができませんが、この地域は都市近郊にあり、治山施設とモミ、コナラを中心とした貴重な森林を一度に目にすることができることから、当署では、「治山の森」と称して、治山事業のＰＲと合わせて市民の方々の森林とのふれあいの場として、遊歩道、看板の整備等を進めています。

当日は、講師である治山課長の説明を受けながら、約1時間半かけて点在する治山施設を見学しました。児童の皆さんは治山の森によく入るとのことでしたが、治山の森の「治山」という名前の意味や、治山施設に関しては、ほとんど知られていませんでした。山の中にトンネルみたいなものや大きな丸い井戸があるけど、何だろう？と思いつつも、気に留めていなかったようです。

説明は、目に見えない山の動きと治山施設の働きをなんとか理解してもらおうと、工夫を凝らして、絵と模型を使いながら小学生にもわかりやすい内容で行いました。普段は立ち入れないように施錠してある、深さ15メートルの集水井の穴を覗いたときは、「おぉ～」と最も反応が良く、質問も多くありました。

集水井を覗いて見ました

終了後の感想文では、自分たちの住むすぐ裏で山崩れがあったこと、それを防ぐために様々な治山施設が作られていることを知ることができて良かった、との内容のものが多くありました。

地域住民の方々も多数訪れている「治山の森」ですが、「治山」のことを詳しく知る方は多くないと思います。当署では、今後も治山施設の説明看板を設置するなどさらに治山の森の整備を進め、治山事業の重要性をＰＲしていきます。

ミニコラム

へぇ～そうなんだ

カメムシ

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター所長
青山一郎

↑クサギカメムシ

多くの虫が雪の下で眠る冬、家屋に潜り込んで春を待つ虫、カメムシの話。

管内で家に侵入してくる圧倒的多数派はお馴染みのクサギカメムシ。山にも里にも沢山いて秋に人家にも飛来する、臭気を振りまく嫌われ者。クサギに付くのが名の由来と本にはあるが、いろんな植物の汁を吸い特にクサギ好きとは見受けられないので、「臭気」が真相だろう。アオカメムシやツマジロカメムシも人家に来る。彼らを無造作に掴んだり潰したりすると強烈なガスを浴びるが、やさしく扱えばそんなこともない。臭気ガスは専守防衛の武器なのだ。

↑エゾアオカメムシ

↑ツマジロカメムシ

クサギカメムシなどに混じって、より大きく厳ついサシガメも人家に忍び込む。臭気は出さないが、昆虫などの体液を吸う肉食種なので、まちがって刺されるととても痛い。

カメムシの仲間にはカラフルな奴も多く、密かなファンも多いようだ。虫とは無縁と見える娘さんが路傍を指差し、長い虫の名を嬉しそうに叫んだのに驚いたことがある。その虫、エサキモンキツノカメムシはハートマークを背負った虫として書籍やネットで紹介されており、見知っていたとのこと。それほど印象的だったのだろう。

↑サシガメ

↑エサキモンキツノカメムシ

↑ナガメ

虫の季節には少し間があるが、何かの拍子に起きだしたカメムシが部屋の中を飛び回ることがあるかも知れない。臭い奴と嫌わずにインドアでの昆虫観察を楽しんでほしい。

蔵王・千歳山を病虫害から守り ボランティアの指導まで

山形森林管理署山形森林事務所
（山寺森林事務所併任）
中　島　直　人

私の勤務する山形・山寺森林事務所は山形市東部に位置し、旧松籟荘跡地の松林に囲まれた場所にあり、両事務所併せて山形市内の国有林の97％に当たる約8,300haを管理しています。

主な業務として、造林請負、林道改良工事の監督、ナラ枯れ被害木・松くい被害木調査、森林ガイドを行っています。

部内の北側には、松尾芭蕉が『奥の細道』で「閑さや岩にしみ入る蝉の声」という俳句を詠んだ有名な名所、山寺立石寺があります。

南東にある蔵王連峰は、およそ100万年前に現在の山体が、さらに1182年の噴火で火口（お釜：仙台森林管理署管内）ができたといわれ、火山活動は昭和47年（地鳴り）まで47回あり、現在は火山ランクＢ（100年活動度または１万年活動度が高い活火山）に区分されています。西麓には、開湯1900年の名湯、強い酸性の硫黄泉で皮膚病を治し、肌を白くなめらかにする美肌効果のある「美肌の湯」として親しまれている蔵王温泉があります。蔵王温泉は、西暦110年に日本武尊の東征に従った吉備多賀由が、矢の毒を癒しているうちに温泉を見つけ入浴したところ、たちまち全快したことから多賀由温泉といわれていました。その後高湯温泉となり、1956年に堀田村から蔵王村に改称したことから「蔵王温泉」と改称され現在に至っています。また、単独のスキー場としては、日本最大の面積を誇り樹氷で知られる山形蔵王温泉スキー場があり、蔵王温泉は海外を問わず多くの観光客で賑わっています。

市街地東部の千歳山（68ha）は、山形県庁に近接し標高471mと高くもなく気軽に登ることができるので、山形市民のシンボルとして親しまれ散策コースとして利用されており、自然休養林に指定されています。この山の松林は、阿古耶姫と松の精霊の悲恋伝説をもとに、「阿古耶の松」として平家物語などに記載されるなど、古くから広く親しまれ大切にされてきました。しかし、昭和57年に松くい虫被害が確認されて以降、伐倒駆除等の処理を続けています。その被害跡地を以前のような松林に再生しようと、平成19年度より「千歳山松林再生プロジェクト」として、地元の滝山小学校児童約150人及び宅健協会による植樹祭と森林教室を開催しています。

山形県におけるカシノナガキクイムシによるナラ枯れ被害は、平成３年に山形県朝日村（現鶴岡市）で発生し、現在では、民有林及び国有林併せて21万本を越える被害となり拡大しています。蔵王、山寺などの観光地を抱えている当部内においても、平成20年度の被害10本から始まり、平成22年度は民有林1,973本、国有林1,189本と拡大の勢いが増しています。ナラ枯れ被害木の調査を行い、防除のため伐倒駆除及び薬剤注入を実施してもすべてを駆除することは難しく、この先どうなるか不安です。

当署管内には蔵王をはじめ優れた森林景観があるため、署で参加者を公募して５回の森林浴の集いを実施しています。その内３回は当部内で行われ、サポートとして森林浴を楽しんでいます。さらに、成沢グリーンフィールド協力隊及び蔵王緑の騎士団による「遊々の森」での森林環境教育、山形グリーンライフ女性の会により平成15年度に行われたスギの記念植樹箇所での下刈等の体験林業において、現地の説明及び下刈方法の指導をしています。

このように、森林病虫害対策から森林環境教育等幅広い業務を行っており、今後も国有林の取組を地域にアピールしていきます。

我が署の隠れた名所

青森森林管理署

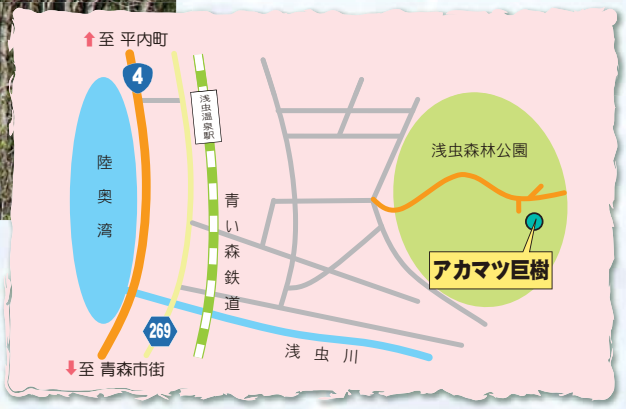
馬場山アカマツ巨樹

青い森鉄道の浅虫温泉駅より徒歩30分。林野庁の「森の巨人たち百選」の「馬場山アカマツ巨樹」は、幹周り6.6m、樹高28mあります。マツクイムシの被害で名のあるアカマツは、ここ数年で枯死し少なくなっており、全国的に貴重な巨木となっています。

松の肌は、風雪に耐えた年輪が積み重なり、亀の甲羅を思わせるように堅くなっています。近年は葉が少なくなって弱ってきているので、平成13年に土壌改良材を用いた応急治療が行われています。

踏み固めによる根の衰弱を防止するため松の根元周辺にはロープが張られていますので、ロープ内には入らずいたわって見学して下さい。

浅虫森林公園入口



交通アクセス

青い森鉄道の浅虫温泉駅下車。駅跨線橋を渡り駅裏の山側にある浅虫森林公園入口（神社鳥居）から、散策道を約900m徒歩約30分。

お問い合せ先

〒038-0011　青森県青森市篠田3-22-16
電話番号：017-781-0131、050-3160-5880　FAX：017-766-3775